開成町立開成南小学校　学校だより

みなみの風

【発行日】
令和８年 11 月 10 日
【発行者】学校長

≪学校教育目標≫　自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成

重点目標「生き生きわくわく」～言葉を大切に、豊かな関わり・確かなつながりをとおして～



10月31日(土)に、予定より一週間遅れとなりましたが、令和8年度の運動会が無事開催されました。当日は雨の心配もなく、逆に若干暑い陽気でしたが、子どもたちはその時にできる最高のパフォーマンスを発揮することができたと感じます。

私は、開会式の子どもたちの真剣でやる気に満ちた言動もさることながら、ラジオ体操の演技に感動を覚えました。1回目の全体学習時には、ラジオ体操の本質をきちんと学びきれていないことがうかがえ、教職員が今一度研修を行うこととなりました。その後は、担任等と子どもたちで一つ一つの動きの意味を確認し、素晴らしい演技につながったと思います。加えて、朝礼台上で見事な見本を示してくれた6年生の存在も忘れてはなりません。私がこれまで見てきた数多くの子どもたちの中で、その児童は一番美しいラジオ体操を見せてくれたといっても過言ではありません。

保護者の方々におかれましても、多くの方にご覧いただき感謝いたします。ありがとうございました。



２年生　遠足
～新江ノ島水族館へ～

10月29日に、2年生が藤沢市にある新江ノ島水族館に出掛けました。本校では、1・2年生は、教科の一環としての校外学習ではなく、社会性と協調性を学ぶことを目的とし、学校行事の遠足として位置付けています。

当日は、県内他地区から多くの園児・児童が訪れることが事前にわかっていたので、はぐれることがないよう入念に準備し、子どもたちもしっかりと約束を守ったため、大きな混乱もなく楽しむことができました。

子どもたちは、水族館が大好きな子が多く、目を輝かせながら多くの発見をしていました。もちろん、子どもたちはお弁当も楽しみにし、大満足でした。




４年生　校外学習
～県総合防災センター等へ～

10月30日に、4年生が校外学習に出掛けました。当日は天候に恵まれ、バス3台に乗車して見学先に向かいましたが、ほとんどの子たちが、総合防災センターを訪れるのは初めてであり、とてもよい経験ができたと思います。

ここ数年、4年生はこの防災センターを訪れており、様々な経験をしています。とくに、震度7を体感するコーナーでは、立っていられない怖さを感じ、地震の怖さを再確認したことと思います。

自然災害は、突然やってきます。改めて、何ができるかを確認したうえで、「自分の命は自分で守る」ことができる子になってほしいと思います。持ち物等のご支援をありがとうございました。




話し方と聴き方の成長
～１年生授業研究～

10月30日と11月2日に、立て続けに1年生の授業研究が行われました。いずれも算数のひき算でしたが、「13－9」をどう考えるかという内容でした。大人にとっては簡単かもしれませんが、1年生にとっては、なかなか難しい問いです。両学級とも、子どもたちが一生懸命考える様子が見られ、7か月の成長を実感しました。何よりも話し方と聴き方がとてもすてきでした。下の写真は、真剣に話を聴く姿に心を奪われ、思わずシャッターを押したものになります。




夏休みに頑張りました
～入賞紹介　その３～

夏休み中に子どもたちが取り組んだコンクール結果の紹介、その3をお伝えします。

今回は、青色申告会主催「税の書道展」です。例年多くの児童が応募し、数多くの入賞者がいるコンクールですが、今年度は特選を2名が、金賞を3名が受賞しました。

小学校において、書写の学びは1年生からありますが、習字セットを使う毛筆は3年生からになります。ふだんの授業においても、一つ一つの字を丁寧に書くよう、心を整えながらがんばっているところです。



「子育てアラカルト㉕　～これは美談？～」

ある日、小学3年生のAさんとその保護者が出掛けるために、電車に乗りました。乗ったときに電車は混んでいなかったので、二人並んで座ることができました。しばらくすると、徐々に混んできて、立つ人が多くなってきました。すると、Aさんの前に、「立ったままより、きっと座った方がよい…」と思われる状態の方（Bさん）が立ちました。小学3年生のAさんは、声を出す勇気がなく、席を譲るかどうか迷いました。その時、隣に座っていた保護者が「席を譲ってあげたら？」とAさんの迷いを後押ししました。その一言で、Aさんは勇気が湧いてきて、Bさんに「どうぞ。」と言うことができました。Bさんは「ありがとうね。」と言って、座ることができました。Aさんはその後、とても気持ちよく過ごすことができました。

さて、この文章を読んで、何を感じられたでしょうか？保護者の立場になれば、Aさんのような子に育ってほしいと思ったかもしれません。また、子どもが悩んでいたり迷っていたりしたときに、このような一言で行動を促したこの保護者のようでありたいと思ったかもしれません。

私は、この話を聞いたときに、はじめは「いい話、美談だなあ…」と思いました。しかし、ちょっと立ち止まってこの一連の情景をイメージしてみてください。ちょっと違和感がありませんか？いろいろな子育てがあってよいと思いますので、他のストーリーもぜひ考えてみてください。